

第4回 小中一貫校準備会議

議事録 要旨

- 1 開催日時 平成26年11月12日(水)19:00~20:50
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 参加者 小柳和喜雄（奈良教育大学教職大学院教授）
諸岡健一（保護者代表）、角 義恭（保護者代表）
吉川 太（自治会代表）、有山喜八郎（自治会代表）
十文字良明（生駒北小学校長）、本田善藤（生駒北中学校校長）
山本 均（教職員代表）、松島誠周（教職員代表）

4 開会あいさつ

生駒市役所営繕課の稲垣課長と設計業者の教育施設研究所の担当者が出席している。

5 質疑応答

座長 : プロポーザルの進捗状況を藤本補佐に説明いただく。

事務局 : 6月16日に公募型プロポーザル方式参加募集の告示。基本設計と実施設計、概算工事費税別15億円である。北小敷地内の中学校の仮設教室改修工事1000万とプレハブ校舎増築2700万の実設計案、北中プール改修3000万、北小校舎解体工事1億2200万、北中校舎解体工事1億1000万、総額17億9900万（税別）である。7月7日に7社の応募があり、7月11日にプロポーザル審査委員会により第一次審査をする。事務所や配置技術者の実績、業務の実施方針などを考慮し、上位4社を選出。8月20日に二次審査を行う。プレゼンテーション、ヒアリングの結果、株式会社教育施設研究所大阪事務所を特定し、5076万円（税込）で契約した。岡山大学教育学部附属小中学校等多くの実績がある。10月27日の教育委員会定例会で基本設計の承認を得た。

座長 : 基本設計案について教育施設研究所に説明いただく。

研究所 : 子どもが使い良い学校 地域にふさわしい景観、環境配慮型エコスクール、学校のエネルギーの70%は光熱費なので自然採光・自然換気ができる環境配慮型エコスクールを提案する。地域防災拠点としての学校、地域の方が使いやすい学校を提案する。配置計画だが、北門、新設する東門が見えるところに職員室を配置し、全体の管理が行き届くようにした。普通教室はすべて南側。北側にゲスト用10台の駐車スペースを配置した。車の通行は西側で、車は敷地内で交差しないようにし、安心して活動できる低学年運動場を職員室近くに確保した。隣にはビオトープの設置も予定している。東門には駐輪場を設ける計画である。

グラウンドは現在とほぼ同じで整形である。1階の職員室をはじめとする管理ゾーンからはすべて

の場所が見渡せる。職員室の上階は東側に小学生ゾーン、西側に中学生ゾーンとして普通教室を2階と3階に配置した。昇降口からの大階段は吹き抜けで、学習する空間にも使えるよう計画している。

1階の多目的室は小学生がほぼ全員入れる広さである。隣に調理室や会議室で地域の方にも開放できる。2階は建物の中央にはコンピュータ室と連動した図書室があり、メディアセンターとしての機能を持つよう計画した。理科室は小学生用と中学生用がある。2階にはメディアスペースを設けて学習したものを展示し、小学生と中学生が学習面でよい影響を及ぼし合えるようにした。2階には小学校1・2年生と中学校9年生の普通教室を南側に配置している。3階はあえて3年生から8年生までの普通教室を設けた。これは中1ギャップの解消を考慮したためである。2階図書室の上は吹き抜けで明るくした。隣にアート系の特別教室を配置した。ここにもメディアスペースを設け、子どもたちの学習意欲を高められるようにと考えている。図書室の上の部分はふれあいスペースとして異学年が触れ合えるようなベンチを置く予定である。普通教室には各学年に応じた提案をしている。1・2年生は教室を大きくし、教室内でワークスペースをとる。3年生以上はオープンスペースを設け、そこで習熟度別のグループ学習を行うことができるようにした。中学生の教室の横には少人数教室を設け、一斉授業と少人数指導、習熟度別学習に対応できるようにした。環境都市生駒として、自然採光が十分取れる環境に優しい学校を考え、大きな吹き抜け、すべての教室が自然採光、雨水の利用、太陽光発電、風によって動く窓等を提案する。

プールは現在中学生用だが、小学生も使えるようにする方法について、協議している最中だ。

参加者： 予備教室が小学校と中学校で1つずつしかないが大丈夫か。

研究所： 3階の外国語教室は普通教室と同じつくりにする予定。2階の少人数教室も普通教室に転用できる。

参加者： 低学年用の運動場の遊具が民家に隣接している。

研究所： 今はなるべく広いスペースを確保しようと配置したが、これから協議していく。

参加者： 高山らしさは設計のどこに表れているのか。

研究所： 屋根のこう配は、地域のそれに合わせている。自然あふれる地域なので自然採光と自然換気だ。竹の利用、茶釜をモチーフにした照明等は実施設計で提案していく。子どもたちが地域の景観を眺められるよう、窓を工夫した。

参加者： 子どもの送迎を考えて、車回しの空間が欲しい。ゲストの駐車場は10台でいいのか？

参加者： できるだけ車は控えてもらっているが、行事等では運動場に30台分ほど駐車場を確保しており、北消防署跡地も利用している。そういったことも可能か。

参加者： 消防団員が緊急時に優先して活動できるようにしてほしい。

参加者： 育友会活動をするスペースはあるか。

研究所： 1階の会議室や研修室等を活用していただくことを考えている。

参加者： 育友会の荷物を置く専用のスペースが欲しい。

研究所： 多目的室には大きい倉庫があり、それを活用してほしい。

参加者： 北小では茶道教室を行っている。その部屋はあるのか。

研究所： 多目的室の一部に可動式の畳を敷く。そうしたらスペースを有効に使える。また普通教室だが、1・2年生は通常の間仕切りを置く。3年生から6年生までは6枚の間仕切りだが、4枚分はオーブ

ンにできる。中学年以上は特別教室への移動があるので、オープンスペースを採用した。

- 参加者 : 普通教室の 8m×8m は狭いのではないか。今の北小の教室より狭くなるのか。
- 研究所 : そこに入る人数で室面積を決める。最近では 8m×8m が多い。今後また検討していく。
- 参加者 : 中学生で体が大きくなってもこの広さでいいのか。
- 研究所 : 問題はない。
- 参加者 : 低学年の運動スペースは 1 人当たりになると 7 m² となるが、この広さでいいのか。これが一般的な広さなのか。
- 研究所 : 低学年が必ずこのスペースで活動しなければならないわけではない。それより、この広さならこれくらいの低学年用運動スペースが取れそうだ、という視点で設計した。
- 参加者 : 高学年の野球のボールやサッカーボールが飛んでくると危険だ。小さな子どもたちが危険を回避できるようにしてほしい。
- 研究所 : 自分の身を守るよう、まずは先生に指導していただくか、先生が見守ることが必要である。
- 参加者 : 2 階の端に 9 年生が入る。高校受験に集中しなければならないが、同じフロアに低学年が入っている。これはなぜか。
- 研究所 : 中 1 ギャップの解消を考えて、小中を一緒の階にした。学年は調整できる。
- 参加者 : 6・3 制ではなく、4・3・2 制などフレキシブルに対応できるようにしてほしい。
- 参加者 : 見守り等防犯に協力する人たちが留まれる空間を配置してほしい。用務室は要らないのか。
- 研究所 : 用務員は通い勤務なので必要ないと聞いている。
- 参加者 : 見守りする人たちに屋根のあるスペースが欲しい。
- 参加者 : 多目的室で子どもたちが活動しているときに、地域の者が入るのはどうか。夏の暑い日はエアコンが必要だ。採光とエアコンは相反する課題である。エコの 1 つは農業だ。草や野菜を育てる場、それで生命教育を行える場がほしい。
- 研究所 : コンポスト、グリーンカーテン等提案している。食育も大事だ。
- 参加者 : 教室の中はどうなっているのか。
- 研究所 : 今、提案させていただいているところである。
- 参加者 : 地面との高低差はどうか。
- 研究所 : バリアフリーで車いすが通りやすい構造にする。
- 参加者 : バリアフリーは大切だが、排水が悪くならないよう十分配慮してほしい。
- 研究所 : 床の結露や雨水の進入に十分注意する。
- 参加者 : 美術室と被服室は逆にした方がよい。そういった教室の配置など教員の意見を聞く場があるのか。けがをした子どもだけでなく、給食をエレベーターで運べるのか。
- 研究所 : 運ぶことができる。
- 参加者 : 1 階に茶室が欲しい。その他にも教員の要望を聞いてくれるのか。理科室の廊下は教室に取り込みたいたのだが。
- 事務局 : 廊下の行き止まりを空けておきたいが、教室に取り込んでも構造上は問題ない。配置の詳細については今後協議する。
- 参加者 : ピッチャーズマウンドは傾斜があるので、サッカーコートとトラックをもう少し南に下げられないか。そうすれば北東側に余裕も出る。また、防犯面で、県道側から子どもの姿が目立たないように

にすべきではないか。

研究所 : 安全管理については地域により考え方が違う。都市部では完全に外周を閉鎖して、インターホンで開錠する。地域が見守る高山地区はどうするのか。登校時には先生が校門に立ち、登校時間が過ぎたら閉めるなど検討する必要がある。

参加者 : ソフト面の検討はもちろん必要だが、今はハード面での提案をしている。

参加者 : 屋上の太陽光発電はどう使うのか。屋根のこう配の理由は何か。

研究所 : 太陽光発電については照明を中心に考えていて、空調は暖房コストを考えて提案させていただいている。屋根のこう配は近隣の家の屋根のこう配に合わせる。

参加者 : 火災で屋上に避難することはないか。また屋上が平面なら有効に使える。太陽光発電は冷暖房に使うのか。

研究所 : 空調については市にいろいろ提案している。バルコニーは類焼を防ぐので火災時のことを考えて確保した。

参加者 : 北棟と南棟の間は陸屋根か。

研究所 : 陸屋根で水が溢れないようにする。また、バルコニーには手すりをつけて転落を防止する。

参加者 : 地域の方が使いやすいように設計していただいた。北小は空き教室が十分にあり、いろいろな活動をしている。老人会の会合がそこで行われ、学校を間接的に見守っている。できればそのスペースを確保したい。休日に開放することも考えて、校内を遮蔽するシステムがあればいい。校舎北側の転落防止策が必要だ。それから北側にひさしがないと雨が降りこむ。また、職員室はおそらくよく周囲を見通せるよう、ガラスで覆われるだろう。しかし、平面の壁も職員室には必要だ。それから、このあたりは西風が強い。西側に開放的な窓がないと風の通りが悪い。

研究所 : 壁のレイアウトはまた提案させていただくので、壁が少ないなら意見を出してほしい。雨水対策については十分検討する。

参加者 : ひさしはないのか。

研究所 : 細かいところは今後検討する。

参加者 : 生徒が休み時間に職員室に来るが、職員室の出入り口は1つなのか。

研究所 : 職員室は真ん中にミーティングルームを作る。出入り口は2つである。

参加者 : 休み時間等職員室の前は生徒でごった返すので、配慮してほしい。技術室には重たい機械が入るが、3階でいいのか。

研究所 : 問題ない。

参加者 : 技術室では木屑がたくさん出る。ゴミが多いので1階にある方がよいのではないか。バルコニーやベランダも欲しい。

研究所 : 参考にして検討したい。

参加者 : 工事費を下げるために部屋数を減らすようなことはないのか。

研究所 : 大丈夫だ。

座長 : それでは次の案件である今後のスケジュールについて、真銅課長に説明していただく。

事務局 : 小中一貫校は平成 29 年 4 月に新校舎で開校する。平成 27 年夏休みに北中の生徒が北小に引っ越しをする。北小の空き教室を利用するが、被服室と木金工室はプレハブで対応する。プレハブ前に自転車置き場。職員室は小中共有なので今よりも広げる。保健室と校長室は小中それぞれ1つずつ。

理科室は小中共用だが、準備室は1教室分、音楽準備室も1教室分とり、楽器の収納も兼ねる。仮設の校舎と倉庫で1年7か月間中学生は小学生といっしょに過ごし、平成29年3月の春休みに仮設から戻る。仮設については北小北中の校長先生らと共に現場で協議しながら作成した。基本設計案は来年1月末をめどに基本設計をまとめる。それから実施設計をし、来年9月に設計を終了。仮設設計は来年4月上旬をめどに行う。また、来年6月に設置工事を始め、平成29年4月まで仮設プレハブをリースする。職員室の拡張工事は来年8月までに終え、2学期からは小中学生と一緒に学ぶ。解体工事は来年10月から4か月かけて行い、新築工事は1年をかけて行い、29年3月完成予定である。配布した児童生徒数の推計は、10月28日現在のものである。小中一貫校開校時の見込みについては変わらない。東門については現在、用地交渉中であり、結果により変わる可能性がある。通学路についても国や県と話し合っているので、決まれば報告する。

参加者 : 新築工事期間中、北中の運動場や体育館は使用できるか。

事務局 : 使えるようにしたい。

参加者 : 倉庫としてのプレハブはないのか。

事務局 : グランドの北側に倉庫を設けたい。

参加者 : 体育の備品等を入れるのに、少し離れているが、ここにしか倉庫は建てられないのか。

事務局 : 協議させていただく。

参加者 : 移行期間中の野球部の練習は中学校グラウンドとするのか。

事務局 : 安全性も含めて検討するが、基本的には中学校のグラウンドで、と思っている。

参加者 : 地域の防災倉庫へは移行期でもアクセスできるか。

事務局 : 危機管理課と調整する。

参加者 : ピアノなどは重複するので、そのような中学校の道具を北中側に倉庫を立てて残しておくことはできないか。

事務局 : 協議するつもりだ。引っ越しについては専門業者と検討し、一時的に預かってもらうことも考える。

参加者 : 保護者が今後どのように開校まで進んでいくのか心配しているが、スケジュールを示せるのか。

事務局 : 今日の会議の内容はホームページで公開する。いつも、準備会議の報告はホームページに掲載している。

参加者 : 育友会の活動場所やボランティアルームが仮設計画にはないが、代わりになる場所はあるか。

事務局 : 会議室を2つ作っている。検討する。

座長 : このあとの予定はどうか。

事務局 : 今日の基本設計を各所属に持ち帰っていただき、12月の中旬に5回目の準備会議を行うということではいかがか。後日ご意見をいただいて決めたい。そして真銅課長の説明にもあったが、来年1月末には基本設計を終了する。できるだけたくさんの御意見をいただきたい。

座長 : 次回にまたご意見をいただき、来年1月末をめどに、基本設計を完成させていくことにしたい。次回も教育施設研究所の方に来ていただけるようなので、活発な協議をお願いしたい。

6 事務連絡 (事務局)

次回の開催については参加者の都合をまとめて日程を決定する。